

1年次開講科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
人文社会総論	人文社会科学の世界	4	有光 秀行	1	水 金	5 4	1,2
人文社会序論	現代日本学入門	2	茂木 謙之介 伴野 文亮	1	木	3	3
人文社会序論	社会科学レポート作成 法-「知的生産」の基 礎技術-	2	沼崎 一郎	1	金	2	4,5
人文社会序論	現代日本学入門	2	伴野 文亮 茂木 謙之介	2	木	3	6
人文社会序論	2セメスターからのフラ ンス語	2	平手 伸昭	2	月	4	7
人文社会序論	英文学入門	2	大河内 昌, TINK JAMES M ICHA, 大貫 隆史	2	金	2	8
人文社会序論	哲学・倫理入門前—— 自分で考えるために	2	直江 清隆, 原 塑, 村山 達也	2	水	5	9
人文社会序論	宗教学入門	2	木村 敏明	2	木	2	10
人文社会序論	インド学入門 仏教興 起時代のインドにおけ る宗教と社会	2	西村 直子	2	月	2	11
人文社会序論	文化人類学序論	2	越智 郁乃	2	金	4	12,13
人文社会序論	中国伝統思想入門	2	三浦 秀一, 齋藤 智寛	2	水	5	14
英語原書講読入門	英語文献による人文社 会入門	2	島 越郎	2	水 金	3 3	15

科目名：人文社会総論／ General Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時. 前期 金曜日 4 講時

Semester : 1 単位数 : 4

担当教員：有光 秀行

コード：LB00000, 科目ナンバリング：LHM-OHS201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人文社会科学の世界

2. Course Title (授業題目) : World of Humanities and Social Sciences
World of Humanities and Social Sciences

3. 授業の目的と概要： この授業は、文学部の必修科目であり、文学部の学生は1年次の第1 Semester に必ず履修する必要があります。毎週水曜第5時限と金曜第4時限に、文学部の 26 すべての専修をそれぞれに代表する教員が各1回講義を担当します。

文学部生は、この全授業を受講し、人文社会科学というものを総合的に理解することが望まれます。課題として合計4つのレポートを作成し提出してもらうことになります。

第1回の授業の際に詳しいオリエンテーションを行いますので、必ず受講してください。

受講のうえで不明な点などがありましたら、上に名前を挙げた教員に聞いてください。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course is compulsory for all first-year students of the Faculty of Arts and Letters in the first semester. In this course, all the 26 departments at the Faculty of Arts and Letters will offer a lecture on Wednesday 5th period or Friday 4th period. The students are expected to attend all lectures and explore the field of humanity and social science comprehensively. Four essays are required to complete this course.

All students must take part in the first class session since an orientation will be conducted. If you have any concerns, please contact the above faculties.

5. 学習の到達目標： 文学部の全専修の講義を受講し、関心あるテーマについてレポートを作成すること等を通して、人文社会科学に対する総合的、基礎的な思考力を身につけるとともに、専門を学ぶ上での目的意識や関心を高める。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will acquire comprehensive and fundamental thinking ability and develop their interests and motivation to achieve their goal when they study specialized subjects while attending all lectures and writing up essays on what they are interested in.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション

2. インド学仏教史の世界 / 行動科学の世界

3. 現代日本学の世界 / 英文学入門

4. 日本語学の世界 / 東洋史の世界

5. 日本語教育学の世界 / 心理学の世界

6. 日本思想史の世界 / 倫理学の世界

7. 西洋史の世界 / 文化人類学の世界

8. ドイツ文学の世界 / 哲学の世界

9. 東洋・日本美術史の世界 / 宗教学の世界

10. フランス文学の世界 / クスッと笑える(?)美術の世界(美学・西洋美術史)

11. 日本文学の世界 / 英語学の世界

12. 日本史研究の意義と方法 / 言語学の世界

13. 社会学の世界 / 中国文学の世界

14. 中国思想の世界 / 考古学の世界

15. 総括

8. 成績評価方法：

レポートと出席とを総合して評価します（比重の目安は、レポート 60%、出席 40%）。

9. 教科書および参考書：

教科書：『人文社会科学の未来へー東北大学文学部の実践』（東北大学出版会、2022）

10. 授業時間外学習：講義を受ける中で自分が興味を持ったテーマについて、講義中に紹介された文献などを手がかりに事象や事例について自分で調べ、レポートを書く準備をしてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、**実務・実践的授業**であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

第1回の授業の際に詳しいオリエンテーションを行いますので、必ず受講してください。

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 木曜日 3講時

セメスター：1 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介, 伴野 文亮

コード：LB00001, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Inovative Japanese Studies

3. 授業の目的と概要：本講義では現代日本学の前提的な知識を提示することによって、日本学という研究領域への導入を行う。日本学は日本という地域を多角的に考察する学問であるため、その対象や研究方法もきわめて多様であり、本講義では種々の方法論を提示する。また東北大学という機関における学的資源を活かした日本学の可能性を考える見地から、学内および大学周辺におけるフィールドワークを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the basic knowege of Inovative Japanese Studies to help students understand the characteristics of Japasese Studies. Japasese Studies is a discipline which think about Japan from various points of view. So in this course, the lecturer introduces some methods.

5. 学習の到達目標：受講生が、この授業を通して日本学の基礎を理解し、日本学に対してさらに深い興味を持つようになることが到達目標である。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students understand Japanese Studies and deepen their interest in Japanese Studies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 イントロダクション

第2回 日本学の歴史

第3回 日本学の方法論①(文芸史)

第4回 日本学の方法論②(社会学)

第5回 日本学の方法論③(地域史)

第6回 日本学の方法論④(実証史学)

第7回 日本学の方法論⑤(メディア論)

第8回 日本学の方法論⑥(宗教学)

第9回 日本学の方法論⑥(経済学)

第10回 大学図書館から考える日本学①

第11回 大学図書館から考える日本学②

第12回 「災害アーカイブ」から考える日本学

第13回 大学史料館から考える日本学

第14回 小括 グループ・ディスカッションとプレゼンテーション

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位10%程度を「AA」とし、次に優秀な20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。各自ノートを取る。

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

授業の構成上、履修者数の上限があるため、上限に達した場合は抽選を行う。

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：1 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LB00002, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会科学レポート作成法－「知的生産」の基礎技術－

2. Course Title (授業題目)：Writing a Social Science Paper: Introduction to Basic Skills of "Knowledge Production"

3. 授業の目的と概要： この授業の目的は、文化人類学、心理学、社会学、組織学、開発学、地域研究、ジェンダー論などの社会科学を学びたいと考えている新入生に、4年間の大学生活で必要な「研究」のスキルを体得してもらうことです。そのために、自分で自分に問題を出して「研究」を行い、A4用紙10枚（4000字詰原稿用紙25枚）以上の研究レポート作りにチャレンジしてもらいます。

この授業では、図書館の使い方、インターネットの使い方、教師との付き合い方、問題のを見つけ方、資料の集め方、レポートの書き方の基本的なスキルとマナーを、実際に自分で研究に取り組みながら、学んでいきます。これらのスキルとマナーは、授業のレポートだけでなく、卒業研究・卒業論文にも役立つものです。一年生のうちに、しっかり身につけましょう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is designed to provide basic training in research skills necessary at the undergraduate level for those students interested in social sciences such as cultural anthropology, psychology, sociology, organization studies, development studies, area studies and gender studies. Students are required to find research problems by themselves, conduct research by themselves, and write up a research paper (10-pages or more).

Students will learn how to conduct library and internet research, how to associate with teachers, how to find research problems, how to collect and analyze data, and how to write an academic research paper.

5. 学習の到達目標：1. 研究に値する問題は何かを、自分で見つけられるようになる。

2. 考える材料となる確かな事実を、自分で探して集められるようになる。

3. 集めた事実に基づいて、論理的に問題への解答を導き出せるようになる。

4. 自分の研究の成果を、文章で表現できるようになる。

5. Google の各種サービスが使えるようになる。

6. レポートが怖くなくなる！

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To become capable of

1. finding a research topic/theme

2. collecting facts

3. thinking logically based on facts

4. writing up the findings academically

5. using Google services

To overcome fear of paper writing

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業予定は以下の通りです。

第1回 導入—研究をはじめる前に—

第2回 研究トピックを探す (1)

第3回 研究トピックを探す (2)

第4回 研究テーマを探す (1)

第5回 研究テーマを探す (2)

第6回 研究の構想を立てる (1)

第7回 研究の構想を立てる (2)

第8回 資料を探し、データを集める

第9回 質的データに「事実」を語らせる

第10回 量的データに「事実」を語らせる

第11回 誠実に、論理的に書く

第12回 序論を書く

第13回 本論の書き進める

第14回 結論を導き出す

第15回 形式を整える

各回の授業のテーマを詳しく説明したプリント資料を、初回の授業の際に配布します。毎回、課題を出し、様々な作業をしてもらいますが、それらの課題を順番にこなしていくうちに、自然とレポートの材料が集まっていく仕組みになっていますから、安心して取り組んでください。

LINE グループと G メール使って日常的に教員やクラスメートとコミュニケーションを取り、互いにアドバイスしあいながら、一緒に研究を進めていきます。また、Google ドライブを使って、下書から完成稿まで、教員が手取り足取り添削指導します。

なお、受講生の研究の進み具合に応じて、授業予定は変更されることがあります。また、新型コロナウイルス感染症の状況と、東北大学行動指針レベルによっては、授業実施方法を変更することもあります。

*やさしくていねいに指導しますから、心配しないで履修してください。

8. 成績評価方法：

授業課題（25%）と最終レポート（75%）で評価します。詳しくは初回の授業で説明します。

9. 教科書および参考書：

沼崎一郎『はじめての研究レポート作成術』岩波ジュニア新書

阿部紘久『文章力の基本』日本実業出版社

10. 授業時間外学習：図書館とインターネットを使っての資料収集、授業課題、レポート執筆にかなりの時間を使います。しかし、誰でもやればできますから、心配しないでチャレンジしてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

文学部生で文化人類学専修を希望する学生は、ぜひとも履修してください。今後の勉強の土台になるし、卒論を書くとき、この授業のありがたみを実感するはずです。

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：伴野 文亮・茂木 謙之介

コード：LB00003, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Innovative Japanese Studies

3. 授業の目的と概要：本講義では現代日本学の前提的な知識を提示することによって、日本学という研究領域への導入を行う。日本学は日本という地域を多角的に考察する学問であるため、その対象や研究方法もきわめて多様であり、本講義では種々の方法論を提示する。また東北大学という機関における学的資源を活かした日本学の可能性を考える見地から、学内および大学周辺におけるフィールドワークを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the basic knowege of Inovative Japanese Studies to help students understand the characteristics of Japasese Studies. Japasese Studies is a discipline which think about Japan from various points of view. So in this course, the lecturer introduces some methods.

5. 学習の到達目標：受講生が、この授業を通して日本学の基礎を理解し、日本学に対してさらに深い興味を持つようになることが到達目標である。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students understand Japanese Studies and deepen their interest in Japanese Studies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 イントロダクション

第2回 日本学の歴史

第3回 日本学の方法論①(文芸史)

第4回 日本学の方法論②(社会学)

第5回 日本学の方法論③(地域史)

第6回 日本学の方法論④(実証史学)

第7回 日本学の方法論⑤(メディア論)

第8回 日本学の方法論⑥(宗教学)

第9回 日本学の方法論⑥(経済学)

第10回 大学図書館から考える日本学①

第11回 大学図書館から考える日本学②

第12回 「災害アーカイブ」から考える日本学

第13回 大学史料館から考える日本学

第14回 小括 グループ・ディスカッションとプレゼンテーション

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位10%程度を「AA」とし、次に優秀な20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。各自ノートを取ることを。

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

授業の構成上、履修者数の上限があるため、上限に達した場合は抽選を行う。

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：平手 伸昭

コード：LB00004, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：2 セメスターからのフランス語
2. Course Title (授業題目)：French from 2nd Semester
3. 授業の目的と概要：後期から初級フランス語を勉強する初学者の1年生を対象とする科目ですが、前期からフランス語の学習を始めている学生や、2年生以上、大学院生も含めて履修可能な科目になっています。週1回・半年という限定された枠内での授業なので、読む・書く・聞く・話すといった総合的な授業ではなく、初級文法の学習と読解力の養成が中心となります。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This class is mainly intended for first-year students who will begin studying elementary French in the second semester, but can also be taken by students who have begun studying French in the first semester, second-year students and above, and graduate students. Since the class is limited to one a week for half a year, the focus will be on elementary grammar and reading comprehension rather than comprehensive French reading, writing, listening and speaking skills.
5. 学習の到達目標：
 - ・フランス語の綴り字の読み方がわかる。
 - ・フランス語の基礎的な文法がわかる。
 - ・フランス語の平易な文章が読めるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To understand how to pronounce French spelling.
To be able to understand simple French sentences.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. 名詞の性と数。冠詞 (1)。人称代名詞 (1)。動詞 être の活用。
 3. 動詞 avoir の活用。否定形。冠詞 (2)。形容詞。
 4. 第1群規則動詞の活用。疑問形。指示形容詞。所有形容詞。
 5. 動詞 aller と venir の活用。前置詞 à , de と定冠詞の縮約。近接未来と近接過去。非人称表現。
 6. 発音のまとめ。
 7. 中間のまとめテスト。
 8. 第2群規則動詞の活用。命令法。疑問形容詞。疑問代名詞。
 9. 人称代名詞 (2)。代名動詞。
 10. 複合過去。
 11. 半過去。比較級と最上級。
 12. 単純未来。中性代名詞。
 13. 関係代名詞。受動態。現在分詞。ジェロンディフ。
 14. 条件法。接続法。
 15. まとめと期末試験。
 8. 成績評価方法：

中間テスト 50%。期末テスト 50%。
 9. 教科書および参考書：

教科書：太田浩一、前田保、渡辺仁 著 (2016)『新・フランス語文法の<基礎>』駿河台出版社
 10. 授業時間外学習：各回、復習として学習箇所の練習問題を自習し自分の理解を確認する。消化できてない点があれば、質問のポイントをまとめ、次の授業で必ず解消する。また、メディアを積極的に活用し、例えばNHKが提供する学習番組などを併せ視聴することで、総合的な力が身につくよう研鑽することが推奨される。
 11. 実務・実践的授業/Practical business
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practical business》
 12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：大河内 昌・TINK JAMES MICHA. 大貫 隆史

コード：LB00005, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：2カ国語以上

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英文学入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to English Literature

3. 授業の目的と概要：1年生のための英文学の入門のための授業です。この授業では英文学専修の三人の教員が英文学の特徴や研究の方法などを具体的な作品や資料を使ってわかりやすく説明します。ここで言う英文学とはイギリス文学だけでなく、アメリカ文学など英語で書かれた文学を意味します。三人の教員がそれぞれ文学の主要なジャンルである詩、演劇、小説をとりあげて説明します。また、文学と映画やテレビといった他のメディアとの関係、文学と政治の関係、翻訳といった問題にも触れます。また、大学で研究をするための英語力をつけるための方法なども説明します。英文学だけでなく文学の研究全般に関心のある学生を対象とします。最終回の授業では教員全員が出席し、学生からの質問を受けつけます。教員が提示する題目から一つを選んでレポートを提出してもらいます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：An introduction for freshmen to English Literature, conducted by the three teachers of English Department. This course offers the knowledge of the history and characteristics of English literature, which includes not only British but also ones written in English including American and post-colonial literature. Three teachers will take turns to teach three main genres--poetry, drama, and the novel. In this course, various topics such as the relation between literature and other media, or the social function of literature will be treated. We are looking forward to meeting students with interests in not only English but literature in general. In the final class, the three teachers will attend the class and talk to the students. Students must write a short end-term essay, choosing one topic from those given during the course.

5. 学習の到達目標：(1)英文学について知る

(2)文学の研究方法を知る

(3)分析的な思考法を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To acquire the knowledge of English literature

(2) To get familiar with the method of studying literature

(3) To think of what Literature is

7. 授業の内容・方法と進度予定：

(1) イントロダクション (大河内教授)

(2) 英詩への招待-ロバート・フロスト (大河内教授)

(3) 英詩への招待-エミリー・ディキンソン (大河内教授)

(4) 英詩への招待-ラングストン・ヒューズ他 (大河内教授)

(5) 英詩への招待-ウィリアム・ワーズワス (大河内教授)

(6) イギリス演劇入門：ウィリアム・シェイクスピア (ティンク准教授)

(7) イギリス演劇入門：喜劇 (ティンク准教授)

(8) イギリス演劇入門：悲劇 (ティンク准教授)

(9) イギリス演劇入門：文学と映画 (ティンク准教授)

(10) 小説入門：作家と登場人物の関係 〈1〉 (大貫准教授)

(11) 小説入門：作家と登場人物の関係 〈2〉 (大貫准教授)

(12) 小説入門：翻訳の理論 〈1〉 (大貫准教授)

(13) 小説入門：翻訳の理論 〈2〉 (大貫准教授)

(14) 復習と期末レポートの説明 (大河内教授)

(15) 教員と学生のディスカッション (大河内教授、ティンク准教授、大貫准教授)

8. 成績評価方法：

レポート 60% ; クラス参加 40%

9. 教科書および参考書：

プリントを配布します

10. 授業時間外学習：予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：直江 清隆・原 壘・村山 達也

コード：LB00006, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学・倫理入門前——自分で考えるために
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Philosophy
3. 授業の目的と概要：哲学的な議論・思考にふれて、自らやってみて、なじんでいってもらうことが目的です。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides students with opportunities to experience philosophical discussions, and do philosophy by themselves.
5. 学習の到達目標：哲学のトピックをめぐって思考し、議論できるようになること。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop basic skills necessary for thinking and discussing philosophical issues.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業の実施形態：対面

哲学専修または倫理学専修への進学を考えている文学部 1 年生の方が主な対象です（下の「その他」参照）。
クラス内でのディスカッションが中心です。人前で話すのが苦手な方は、授業外に TA や教員にメールを送るなどの形でディスカッションに参加することも可能です。
授業中に短いプレゼンテーションをするか、小レポートを提出するかしてもらいます。プレゼンやレポートのやりかたやテーマは教員か TA と相談して、追い追い決めていきます。

【以下の予定には変更があり得ます。】

1. ガイダンス
2. トピックを探しながら自由に論じよう (1)
3. トピックを探しながら自由に論じよう (2)
4. トピックを探しながら自由に論じよう (3)
5. トピックを探しながら自由に論じよう (4) 小レポート
6. 知るとは何かについての哲学対話 (1)
7. 知るとは何かについての哲学対話 (2)
8. 知るとは何かについての哲学対話 (3)
9. 知るとは何かについての哲学対話 (4) 小レポート
10. 現代倫理学のトピック (1)
11. 現代倫理学のトピック (2)
12. 現代倫理学のトピック (3)
13. 現代倫理学のトピック (4) 小レポート
14. まとめ (1)
15. まとめ (2)
8. 成績評価方法：
プレゼンテーションまたは小レポート（授業中）：60%、出席およびのパフォーマンス：40%。相互評価を導入することもある。
9. 教科書および参考書：
教科書：直江清隆編『高校倫理の古典で学ぶ 哲学トレーニング 2 ——社会を考える』（岩波書店、2016 年）
（『高校倫理の古典で学ぶ 哲学トレーニング 1 ——人間を理解する』（岩波書店、2016 年）も参考図書に挙げておきます。）
10. 授業時間外学習：授業中のディスカッションをめぐって考えたり、予告されたテーマについて考えたりし、次回の授業での発言を準備する（または TA や教員にメールする）。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
哲学専修・倫理学専修への進学を考えている学生はなるべく履修してください。
他学部の学生は、履修登録前に、担当教員に相談してください（授業初回などに直接会って話すのでも、電子メールでも）。

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：木村 敏明

コード：LB00007, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Religious Studies

3. 授業の目的と概要：本授業では、宗教学の基本的なものの見方と主要なテーマについて、次のような方法で理解することを目指す。具体的には、次のような内容を含む。

1. 宗教学の基本的なものの見方について、教員が簡単な講義を行ったのちに、討論を行う。
2. 宗教に関する新聞記事から、各自（受講生の数によっては班単位）で興味を持った話題を選び、その社会的、学術的背景や意義について調べて発表をする。
3. 活きた宗教に触れる。幾つかの宗教の信者、あるいは宗教者にそれぞれの宗教について語ってもらい、議論をする。また、地域の宗教施設において民衆の祈願に関するフィールドワークを一回行うことも予定されている。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to help students understand basic viewpoints and important theme of religious studies through class works as below.

1. Group discussion after shrot lecture on basic viewpoint of religious studies.
2. Group presentation on a topic that each group choose from articles of newspapers.
3. A fieldwork on a religious site and dialogues with some religious persons are planed.

5. 学習の到達目標：宗教学の基本的な知識と技法を身につけることができる。

現代の宗教をめぐる諸問題について知ることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain basic knowledge and skills required in religious studies. Students will understand religious conditions in modern society.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

イントロダクション

2. 準備作業

3. 講義と討論 1. 宗教とは何だろう

4. 講義と討論 2. 教育と宗教

5. 講義と討論 3. 宗教の社会貢献

6. 講義と討論 4. 宗教的寛容とは

7. 新聞発表準備

8. 新聞発表 1.

9. 新聞発表 2.

10. 新聞発表 3.

11. 新聞発表 4.

12. 活きた宗教に触れる 1. 神仏への願い（神社調査を予定）

13. 活きた宗教に触れる 2. 日本におけるイスラーム（仙台マスジド代表による講演を予定）

14. 活きた宗教に触れる 3. 宗教による社会貢献の新展開（臨床宗教師による講演を予定）

15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業中の発表、議論への参加状況。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

10. 授業時間外学習：発表準備。

Preparation for presentation

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB00008, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：インド学入門 仏教興起時代のインドにおける宗教と社会
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Indology: Religion and society in early Buddhist India
3. 授業の目的と概要：本授業では、A. L. Basham, History and Doctrines of THE ĀJĪVIKAS. A Vanished Indian Religion (アージーヴィカ教の歴史と教理. インドの消滅した宗教) (London 1951) 原文の講読を通じて、仏教興起時代（紀元前 5 世紀頃）に至るインドの宗教と社会の成り立ちを紹介する。受講者は予習として Basham の英語原文を和訳し、その内容について講師が解説する。サンスクリット語、パーリ語、並びにこれらの言語で伝承される原典についても随時紹介し、インドの言語文化に直接触れることのできる機会を提供する。今年度は前年度に終えた部分のコピーを配布し、本論部分から読み始める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course introduces overview of the history of religion and society in early Buddhist India (c. 5C. B.C.) based on A. L. Basham, History and Doctrines of THE ĀJĪVIKAS: A Vanished Indian Religion (London 1951). Students will translate some parts of this book into Japanese as preparation for the class. They also listen to lectures on the history of Indian Buddhism. This class will offer students an opportunity to get familiar with some passages of the Veda or Buddhist Canon traditioned in Sanskrit and Pāli, the languages of ancient India.
5. 学習の到達目標：仏教興起時代におけるインドの宗教と社会の成り立ちについて、初歩的な理解を得る。サンスクリット語、パーリ語についての理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to help students understand religion and society in early Buddhist India. Students will also deepen their interest in languages in ancient India: Sanskrit and Pāli.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. インTRODククション インドの歴史と言語
 2. 講義① 仏教前史
 3. 講義② インド仏教史
 4. 講読ならびに解説
 5. 講義③ ブッダの生涯 誕生から出家まで
 6. 講読並びに解説
 7. 講義④ ブッダの生涯 出家から涅槃まで
 8. 講読並びに解説
 9. 講義⑤ 仏典『沙門果経』
 10. -14. 講読ならびに解説
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業の準備状況 30%，授業及び提出物で示される理解度 30%，期末レポート 40%
9. 教科書および参考書：

A. L. Basham, History and Doctrines of THE ĀJĪVIKAS. A Vanished Indian Religion. (必要な箇所を配布する)
10. 授業時間外学習：講読に際しては和訳を準備すること。

講義の前には、前回までの講義内容の中に不明な点がなかったかを、プリントやノートで確認し、講義後には、その日の内容に不明な点がないかを確認する。不明な点があれば、メモしておくこと。特に、素朴と思えるようなものでも疑問は放置せず、質問してください。質問は歓迎します。

Students are required not only to submit class assignments but also to review each class using handout
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：越智 郁乃

コード：LB00009, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学序論

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Cultural Anthropology

3. 授業の目的と概要：この授業は文化人類学の入門である。文化人類学とは、主としてフィールドワークを通じて異文化について研究し、そこから相対的な視野と思考力を養おうとする学問である。文化人類学の基礎的な知識を学ぶとともに、フィールドワークの体験を通して、この学問の特徴を知ってもらいたい。

授業は大きく分けて、(1) 文化人類学の考え方についてのレクチャーと討論、(2) 学内でのフィールドワーク体験、(3) 民族誌の講読、(4) レポートの作成の4つから成る。主な内容は、講義を聴き、議論し、課題をこなしてゆき、最終的にレポートを作成することである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class is an introduction to cultural anthropology. Cultural anthropology is a discipline that studies different cultures mainly through fieldwork, in order to develop a relative perspective and thinking ability. Students will learn the basic knowledge of cultural anthropology and understand the characteristics of this discipline through fieldwork experiences.

The class consists of four sections. The class will consist of four sections: (1) lecture and discussion on the concept of cultural anthropology, (2) fieldwork experience in kawauchi campus, (3) reading ethnography, and (4) report writing. The main content of the class is to listen to lectures, discuss, complete assignments, and finally write a report.

5. 学習の到達目標：文化人類学がいかなる学問で、どのような考え方と方法のもとに研究を進めていくのかについての基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Learn the basics of what cultural anthropology is and how to conduct research based on the ideas and methods of the discipline.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション:文化とは、文化人類学とは
2. 文化人類学の考え方① 家族、親族、社会関係、つながり
3. 文化人類学の考え方② 結婚しなくてもいいじゃない
4. 文化人類学の考え方③ 性とジェンダー : 男/女を考える
5. 文化人類学の考え方④ 宗教 : 世界をどう見るか、何を「信じる」か?
6. 文化人類学の考え方⑤ 儀礼: 時間の流れに区切りをつける
7. 文化人類学の考え方⑥ 観光: あえて「偽物」を楽しむ
8. フィールドワークをしてみよう① 非参与観察とインタビュー入門
9. フィールドワークをしてみよう② 非参与観察報告会
10. フィールドワークをしてみよう③ インタビュー報告会
11. 民族誌を読んでみよう①
12. 民族誌を読んでみよう②
13. レポートを構想する
14. レポート構想発表会
15. まとめ: 文化人類学を学んで

8. 成績評価方法：

中間レポート [30%]、出席・討論参加 [30%]、最終レポート [40%]

9. 教科書および参考書：

[教科書]『ようこそ文化人類学へ』川口幸大著、2017、昭和堂

参考書については、授業で適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：毎週、その回の授業内容に沿った課題を出す。フィールドワーク体験については授業時間外で各自実施し、授業内で報告する。また民族誌を講読した上での、レポート構想発表やレポート執筆にも時間を割くことになるので、注意されたい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

Semester : 2 単位数 : 2

担当教員：三浦 秀一・齋藤 智寛

コード：LB00010, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国伝統思想入門
2. Course Title (授業題目) : Introduction to Chinese traditional thought
3. 授業の目的と概要：中国思想専修の志望者および広く中国の思想や古典に関心のある学生を対象として、中国における伝統思想の諸相を紹介、解説する。授業は導入とまとめを除いて 5 回の講義と 8 回の原典講読から構成され、講義においては、儒仏道三教、朱子学、陽明学といった中国思想の代表的な諸学派における思想や、学派間の論争を解説、検討する。原典講読では、日本の江戸時代から明治時代にかけての漢学者による漢文や漢文訓読体の文章を読み、漢語・漢文による思惟にじかに触れるとともに、本邦における中国研究の流れにも一定の理解を得る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides explanations of various aspects in Chinese traditional thought to students majoring in Chinese philosophy or being interested in classical Chinese. In order to come in touch with thinking of classical Chinese and learn about a history of Chinese studies in Japan, this class consists of 5 times lectures and 8 times readings expect for a guidance and a conclusion, in the lectures, lecturers will explain some famous Chinese schools such as the three teachings or Confucianism, Buddhism and Daoism, the Neo-Confucianism of Zhu Xi and Wang Shouren, also examine controversies between each schools. In the readings, students will read the works of Japanese scholars written by classical Chinese or Kanbun style(a writing style modeled after a translation of a classical Chinese text into Japanese) .
5. 学習の到達目標：中国古典思想の各学派について初歩的な理解を得る。思想・哲学的内容を持った漢文や漢文訓読体の文章が理解できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students acquire primary understanding about some famous schools of Chinese classical thought, and reading skills for the philosophical works written by classical Chinese or Kanbun style.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス (三浦、齋藤)
 2. 講義①「儒家と道家」(齋藤)
 3. 講読 1 (三浦)
 4. 講読 2 (三浦)
 5. 講義②「朱子学」(三浦)
 6. 講読 3 (齋藤)
 7. 講読 4 (齋藤)
 8. 講義③「仏教と中国固有思想」(齋藤)
 9. 講読 5 (三浦)
 10. 講読 6 (三浦)
 11. 講義④「陽明学」(三浦)
 12. 講読 7 (齋藤)
 13. 講読 8 (齋藤)
 14. 講義⑤「史学、科学、芸術論」(齋藤)
 15. まとめ (三浦) ガイダンス 三浦・齋藤
8. 成績評価方法：

小レポート (50%)、原書講読の予習状況と討論での発言状況 (50%)
9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。参考書は講義の中で紹介する。
10. 授業時間外学習：原書講読の週には、辞書、事典類を用いて予習しておくこと。また、参考書を読んで討論やレポートに備えること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：英語原書講読入門／ Introduction to Academic Reading in English

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時. 前期 金曜日 3 講時

Semester : 2 単位数 : 2

担当教員：島 越郎

コード：LB00011, 科目ナンバリング：LHM-OHS202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語文献による人文社会入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Humanities through Reading English Documents

3. 授業の目的と概要：本授業では、各授業担当者の専門領域に関わる内容の英語文献を講読します。英語原書文献の読解力は二年次以降の学習・研究にとって重要であるばかりでなく、文学部卒業生に期待される基礎学力として欠かせません。英語原書文献の正確な読解には、語学的読解力と論旨を正確に把握する思考力が必要となります。加えて、トピックの背景知識や、その他の一般的知識も必要です。したがって、英語辞書等の活用に加えて、語学以外の側面についても自ら調べる姿勢が重要となります。本授業では、専門課程で必要となる「読み方」や「調べ方」を身につけてもらうことを特に重視します。各授業の具体的内容は授業紹介を参照してください。また、授業方法、評価方法等の詳細は、授業開講時に各担当者が指示します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to develop students' skill of reading English texts in humanities. The ability of reading English is required not only in the courses offered in undergraduate and graduate programs, but expected as a fundamental skill of graduates from our school. In reading academic English, you need to have the ability to think logically and critically, as well as the precise knowledge of English grammar. Moreover, because the background knowledge is often required to understand the text, the ability of finding necessary information is very important. In this course, therefore, students are expected to acquire both the skill of reading and of finding information. As for the content of each class, look at the course description. At the first class, teachers will give students detailed information about the text, grading, and how the class will proceed.

5. 学習の到達目標：(1)英語原書文献の読解力が身につく。

(2)文献の批判的講読の仕方が身につく。

(3)理論的思考力が身につく。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)To develop the skill of reading academic English

(2)To be able to read texts critically

(3)To be able to think logically

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) イントロダクション

2) 学術英語の読解演習 (1)

3) 学術英語の読解演習 (2)

4) 学術英語の読解演習 (3)

5) 学術英語の読解演習 (4)

6) 学術英語の読解演習 (5)

7) 学術英語の読解演習 (6)

8) 学術英語の読解演習 (7)

9) 学術英語の読解演習 (8)

10) 学術英語の読解演習 (9)

11) 学術英語の読解演習 (10)

12) 学術英語の読解演習 (11)

13) 学術英語の読解演習 (12)

14) 学術英語の読解演習 (13)

15) 学術英語の読解演習 (14)

8. 成績評価方法：

各担当教員が授業開始時に指示します。

9. 教科書および参考書：

各担当教員が授業開始時に指示します。

10. 授業時間外学習：予習段階であらかじめ教材に目をとおしておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

1～4 クラスは水曜日 3 校時

5～8 クラスは金曜日 3 校時